科目名称：	日本美術史	
担当者名：	佐々木　千嘉	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2

授業の目的・テーマ

古代から現代までの日本美術史の流れを、主要作品の特徴と共に理解する。テーマに沿って講義し、関連作品をスライドや映像、参考資料等で具体的に確認し、多くの作品に触れるようにする。

授業の達成目標・到達目標

年表的俯瞰に留まらず、古今の主要な作品を通して知る喜びを味わう。自分の眼で作品を見て考え、簡単な作品記述ができるようにする。また各自が今後行う制作や作品へ美術史を学んだエッセンスを取り入れ、豊かなものとしていけることも目標とする。

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
全学DP(1)	0	0	0	0	0
全学DP(2)					0
全学DP(3)	70	0	0	30	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容１》	《経験年数１》
	《内容２》	《経験年数２》
	《内容３》	《経験年数３》
	《内容４》	《経験年数４》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解力	日本美術史の作品について理解し、興味を持って鑑賞でき、作品記述が詳しくできる。	日本美術史の作品について理解し、興味を持って鑑賞でき、簡単な作品記述ができる。	日本美術史の作品について理解し、鑑賞することができる。	日本美術史の作品について全く理解していない。
知識	日本美術史の作品の特徴を詳しく知ることができた。	日本美術史の作品の特徴を知ることができた。	日本美術史の作品の特徴を少し知ることができた。	日本美術史の作品の特徴について全く知識がない。
探求心	各自が今後行う制作や作品へ日本美術史を学んだエッセンスを取り入れ、豊かなものとしていける。	各自が今後行う制作や作品へ日本美術史を学んだエッセンスを取り入れることができる。	各自が今後行う制作や作品へ日本美術史を学んだエッセンスを少し取り入れることができる。	日本美術史に対する探究心は全くない。
意欲	日本美術史の作品について興味を持ち、知る喜びを味わうことができた。	日本美術史の作品について興味を持った。	日本美術史の作品について少し興味を持った。	日本美術史の作品について全く興味がない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第１回　導入	参考書巻末の年表に目を通してまとめておく。	40分
第２回　先史・古墳時代	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第３回　飛鳥・白鳳時代　仏教伝来と仏教美術	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第４回　奈良時代　仏教美術と正倉院宝物	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第５回　平安時代　密教美術・仏教美術・絵巻物	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第６回　鎌倉時代　王朝美術の継承と変革	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第７回　室町時代　水墨画・土佐派・狩野派	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第８回　アクティブラーニング	事前に通達する内容について、準備しておくこと。	40分
第９回　桃山・江戸時代初期　狩野派	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第10回　江戸時代①　琳派	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第11回　江戸時代② 浮世絵	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第12回　江戸時代③ 文人画・写生画・奇想派・蘭画	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第13回　近代　洋画の始まりと展開	参考書該当ページに目を通しておくこと。図書館で事前に該当年代の図録を見ておくこと。	40分
第14回　アクティブラーニング	事前に通達する内容について、準備しておくこと。	40分
第15回　先史・古墳時代から近代（洋画の始まりと展開）までを復習する	試験範囲について、各自、復習しておくこと。	40分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、予習・復習のために参考書を確認すること。

成績評価の方法・基準

定期試験は、 70%で評価する。 その他の評価配分は、以下のとおりである。

授業への積極的な関与とショートレポート（毎回）の提出　30%

課題に対してのフィードバック

ショートレポートは評価し、希望者には返却する。

教科書・参考書

教科書：なし
参考書：辻惟雄 監修『カラー版日本美術史』（美術出版社）